

綏靖天皇 桃花鳥田丘上陵鳥居改築工事に伴う立会調査

綏靖天皇桃花鳥田丘上陵は奈良県橿原市四条町に所在する。当陵の陵域の一部は古墳時代中期から後期にかけて形成された古墳群などで構成される四条遺跡の範囲内であり、当陵の兆域内に現在でもみられる円丘を藤原京造営時の削平をまぬがれた古墳（四条塚山古墳）とみる説もある⁽¹⁾。

今回の調査は、当陵の拝所内に設けられた木製の鳥居が経年のため劣化したことから⁽²⁾、これを石製の鳥居に改築することに伴って実施したものである（第30図）。なお、調査期間は平成28年1月18日から21日までの4日間であった。調査にあたっては、既存の木製鳥居の基礎除去および新規の石製鳥居の基礎施工に伴う掘削時に立ち会うこととし、調査箇所の平面図および土層断面図作成や写真撮影などをおこなった。

今回の工事に伴う掘削範囲は、既存の木製鳥居の基礎を除去し、新規の石製鳥居の基礎を施工するための余掘りを考慮して幅約5.5m×長さ約2.7m×深さ約1.4mとなった。掘削範囲の大半は既存の鳥居を設置した際の埋土や、さらにもう一代前の鳥居を設置した際の埋土であったが、トレンチ状となった掘削範囲の四壁周辺ではそれ以外の土層も確認された（第31図、図版29-1）。

調査箇所を確認された土層は、Ⅰ層：既存の鳥居基礎施工時の埋土と考えられる暗茶灰色砂質土（しまりなく、コンクリートブロック混じる）、Ⅱ層：拝所整備前の旧表土層と考えられる暗灰茶色砂質土（しまりあり）、Ⅲ層：拝所整備前すなわち幕末頃以前の耕作土層とも考えられる灰茶色砂質土（粘性ややあり）の大別三層であった。

調査箇所が含まれる拝所周辺は周囲よりも一段高くなっており、その比高差を考慮すれば、調査箇所において確認された旧表土層とおぼしき土層（Ⅱ層）の標高は現在の拝所以外の箇所における地表面よりもやや低い程度であり、Ⅱ層について当陵が現在のような状況に整備される以前の表土層とみても齟齬はきたしていないものと判断される。ただし、Ⅱ層の下にみられるⅢ層については耕作土層である可能性を考えたが、0.7m以上の堆積となっていることなどを考慮すると不審な点もあり、その評価については確定できない。少なくとも当陵の拝所整備時以前に形成された土層であることは確かであろう。当陵周辺では発掘調査事例が近年蓄積されつつあり、今後公表されると思われるそれらの状況とも照らしあわせて判断していきたい。

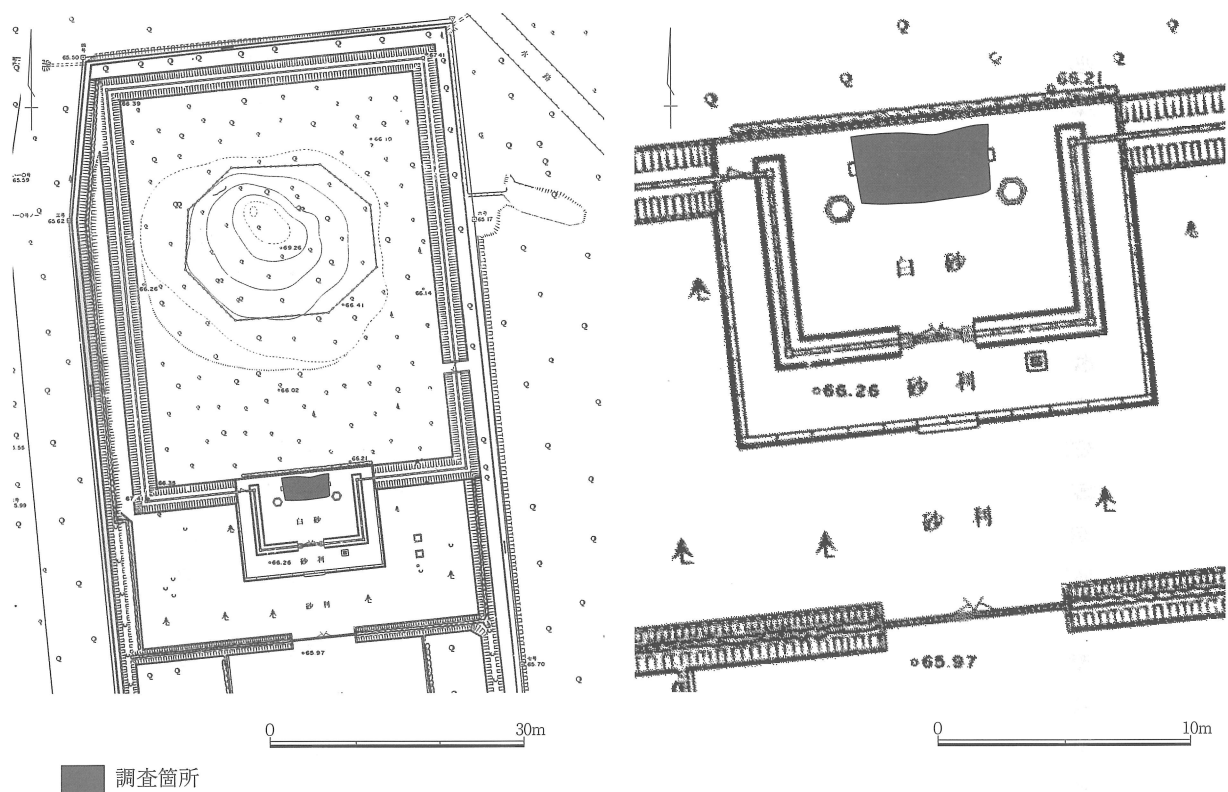
なお、今回の調査において遺構や遺物は確認されなかったことから、工事は予定通り施工されることとなった。

（加藤一郎）

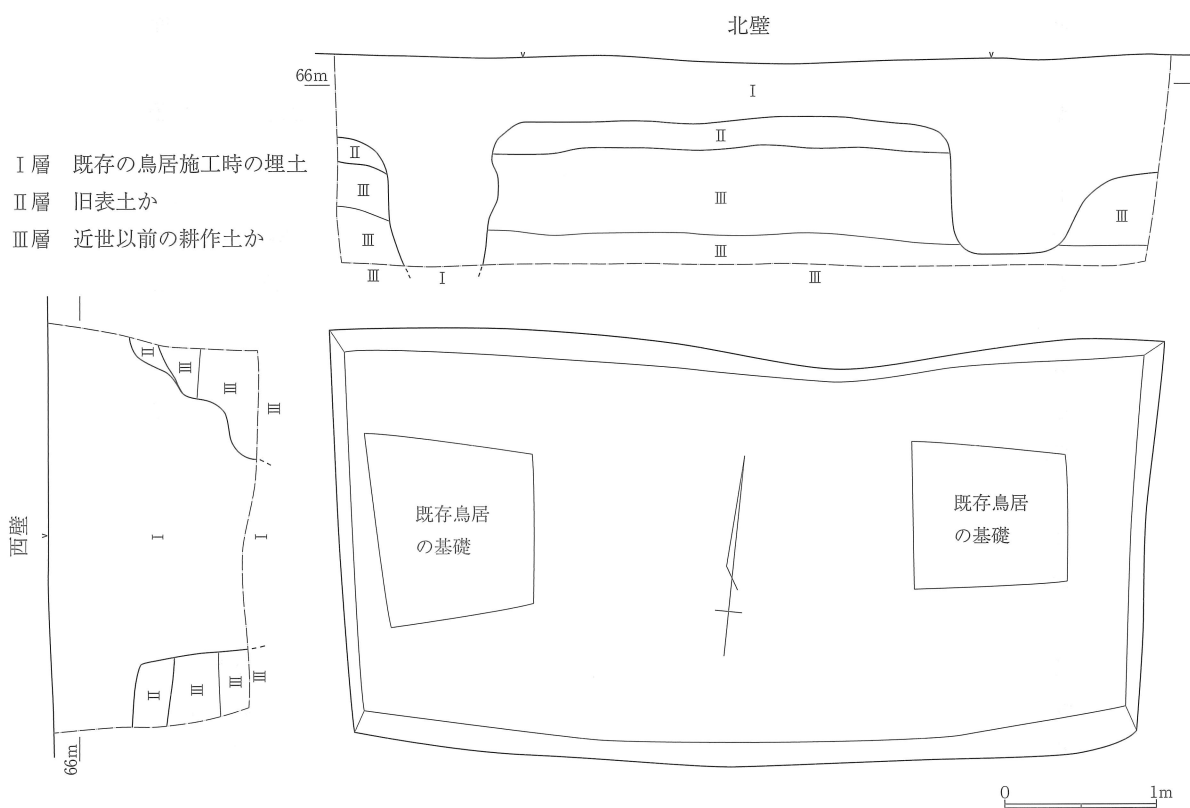
註

（1） 今尾文昭「天皇陵古墳解説」『天皇陵古墳』大巧社、1996年。

（2） 既存の木製鳥居は平成3年（1991）に竣工したものである。



第 30 図 桃花鳥田丘上陵 調査箇所位置図 (1/900、1/300)



第 31 図 桃花鳥田丘上陵 調査箇所平面図および断面図 (1/50)



1 桃花鳥田丘上陵 調査箇所全景（南から）



2 檜隈坂合陵 調査箇所全景（南西から）